

2026年度 文学研究科入学試験問題 (解答別紙・直接解答)

博士課程後期課程
〈正規学生(一般)〉
〈特別学生(社会人)〉
〈特別学生(外国人留学生)〉

心理学領域

試験科目
専門外国語科目

受験番号

解答記入不可
↑

問Ⅰ. あなたの修士論文研究 (あるいはそれに相当する研究) の概要を英語 200 words 程度で述べなさい。

問Ⅱ. 次の8つの論文の要約 (Abstract) から4つ選び、それぞれの論文タイトルを日本語に訳した上で、内容を解答用紙4行程度に日本語でまとめなさい。(論文は次頁以降にもあります)

出典 : Anderson, M. M. et al. (2025). *Emotion*, 26, 25–36.

出典 : Peck, S. et al. (2025). *Journal of Applied Behavior Analysis*, 58, 731-743.

出典 : Płotnikowska, J., & Filip, A. (2026). *Journal of Experimental Child Psychology*, 263, 106407.



3 枚中
1

2026年度 文学研究科入学試験問題 (解答別紙・直接解答)

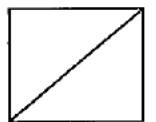
博士課程後期課程 <正規学生(一般)> <特別学生(社会人)> <特別学生(外国人留学生)>	心理学領域	試験科目 専門外国語科目	受験番号	番
---	-------	-----------------	------	---

解答記入不可
↑

出典 : Lorente, P. et al. (2025). *Psychonomic Bulletin & Review*, 32, 1795-1802.

出典 : Yamada, S. et al. (2025). *Perception*, 54, 734-752.

出典 : Frick, A. et al. (2025). *Animal Cognition*, 29, 7.



3 枚中
2

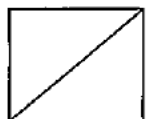
2026年度 文学研究科入学試験問題 (解答別紙・直接解答)

博士課程後期課程 〈正規学生(一般)〉 〈特别学生(社会人)〉 〈特别学生(外国人留学生)〉	心理学領域	試験科目 専門外国語科目	受験番号	番
---	-------	-----------------	------	---

解答記入不可
↑

出典：Furrer, R. A. et al. (2025). *Journal of Personality and Social Psychology*, 129, 496–508

出典：Sharabi, L. L. et al. (2025). *Computers in Human Behavior*, 177, 108879.



3 枚中
3

2026年度 文学研究科入学試験問題 (解答別紙・直接解答)

博士課程後期課程 〈特別学生(社会人)〉 〈特別学生(外国人留学生)〉	心理科学領域	試験科目 専門基礎科目	受験番号	番
---	--------	----------------	------	---

解答記入不可
↑

I. 心理学実験に関する以下の問題文を読み、次の①～④の間に答えなさい。

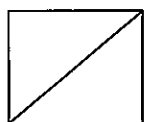
「失敗経験が自己効力感に及ぼす影響は、原因帰属の種類によって異なり、やり方に帰属された場合は失敗したとしても自己効力感は維持される」という仮説を検証するため、実験研究を行った。実験では、参加者に「できるだけ早く解くよう」教示した上で、難易度の高いパズル課題を1回、実施した。課題成績のフィードバックとして成功(他の参加者より良かった)あるいは失敗(他の参加者より悪かった)のいずれかを提示した。続いて課題成績の原因について、自身の能力に焦点を当てた原因帰属(例:「あなたの能力が高かった」)もしくは課題のやり方に焦点を当てた原因帰属(例:「あなたのやり方が悪かった」)、つまり能力もしくはやり方のいずれかに帰属させる説明を行った。その結果、実験参加者の大学生40名はa()群、b()群、c()群、d()群の4つのいずれかに無作為に割り当てられ、各群10名であった。課題終了後、参加者の自己効力感を尺度得点として測定した。

- ①本研究の実験計画について、独立変数および従属変数を明示したうえで、どのような研究デザインであるかを簡潔に説明しなさい。また、得られたデータを分析するために最も適切であると考えられる統計手法を一つ挙げ、その理由を簡潔に述べなさい。
- ②分析の結果、課題成績の有意な主効果が見られ、成功をフィードバックした場合は失敗をフィードバックした場合よりも自己効力感が高かった。一方、原因帰属の種類の主効果は見られなかった。さらに、課題成績と原因帰属の種類との有意な交互作用が見られた。成功をフィードバックした場合には原因帰属の能力・やり方の群間差が見られなかった(a、bの両群とも平均10点)。失敗をフィードバックした場合にはやり方に帰属すると自己効力感が成功の両群と同等であったが(d群:平均9点)、能力に帰属すると自己効力感が低かった(c群:平均3点)。
(ア)本題におけるa～d群の各群は問題文中のa～d群に対応している。空欄(a～dの4箇所)に適切な語を入れなさい。
(イ)この結果を図示せよ。(なお、エラーバーは不要)
- ③この結果を踏まえ、なぜ単純主効果の検定を行う必要があるのかを説明しなさい。その際、具体的にどの群間の比較を行うことが適切であるかについても言及しなさい。
- ④この実験デザインについて、考えられる改善点を、理由とともにできるだけ挙げなさい。

II. あなたの大学院での研究テーマを日本語で書き、それを英訳しなさい。

III. 心理学に関連する次の用語・人名から10語を選択し、簡潔かつ的確に説明しなさい。

- | | |
|--------------|---------------------|
| a. 自由度 | k. 作業検査法 |
| b. 要求特性 | l. ソーシャル・サポート |
| c. プラグマティズム | m. BIS/BAS |
| d. β 波 | n. EMG |
| e. おや、なんだ反射 | o. TD児 |
| f. 幾何学的錯視 | p. Bridgman, P. W. |
| g. 短期記憶 | q. Vygotsky, L. S. |
| h. 概念学習 | r. Yerkes, R. M. |
| i. 印象形成 | s. Thurstone, L. L. |
| j. 前操作期 | t. Bowlby, J. M. |



$\frac{1}{1}$ 枚中